

県と県内大学との連携による政策研究報告会

大都市圏郊外における
男性退職者の地域生活者化
～自殺予防の必要性と
社会活動の可能性～

立教大学

和 秀俊

はじめに

- ・近年、団塊世代の一斉退職をはじめとして男性の企業退職者(以下、男性退職者)が急増
- ・特に、現役時代は会社人間として高度経済成長を支えた男性退職者は、家と会社の往復ばかりで家や地域のことは妻に任せたまま
- ・退職後は自分の居場所すらない人が多く、特に大都市圏郊外の新興住宅地において顕著

その結果…

- ・ 家に閉じこもり気味になり、心身の健康を害してしまふ人も増加

→ 自殺につながる可能性

- ・ 夫と退職後の家庭生活を送ることによって、主人(夫・亭主)在宅ストレス症候群やうつ病になってしまう配偶者も

→ 男性退職者だけの問題ではなく、配偶者である妻にとっても大きな問題

したがって…

- ・ 家庭などで退職後の生活を上手く構築できない男性退職者にとって地域での生活が重要

- ・ 身近な地域での生活を構築する＝地域生活者となる＝**地域生活者化**が求められる

（高齢期の生活構造は活動範囲、日常生活圏域が限られてくるため）

- ・ 期待概念ではなく、実際の地域生活者となる「**きっかけ**」や「**仕組み**」づくりが必要

そのためには…

- ・ 男性退職者が地域生活者となるプロセスやメカニズムを解明し、概念枠組みを構築

- ・ 構築された概念枠組みをもとに質問紙を作成し、量的調査を行い分析することで…

- 男性退職者の生活実態を把握。

- 「きっかけ」、「仕組み」づくりの検討。

- 実際的な地域生活者となるプロセスモデルを構築。

目的

- ・ 大都市圏郊外における男性退職者の生活実態の把握
- ・ 地域生活者となる「きっかけ」や「仕組み」の検討
- ・ 地域生活者化するプロセスモデルの構築

方法

- 質的研究によって導き出した概念枠組みをもとに、質問紙を作成。
- 質問紙による量的調査を実施。
- 量的調査のデータを分析し、男性退職者の生活実態の把握、地域生活者化の「きっかけ」、「仕組み」の検討、プロセスモデルの構築。

■質問紙の作成

●地域生活者化の概念枠組み

- ・和(2010)は、男性退職者を対象にしたインタビューによる質的データをM-GTAで分析
- ・その結果、男性退職者の地域生活者化とは、「多様な人々が身近な地域で緩やかな『つながり』や無理のない気軽な『助け合い』を形成し、地域における自己存在を確認できること」という概念枠組みを構築

●調査項目

- (1) 基本属性
 - (11) 配偶者について
- (2) 日常生活の移動手段
 - (12) 仕事について
- (3) ネットワーク
 - (13) 健康について
- (4) 娯楽の有無
- (5) 社会参加活動
- (6) ソーシャル・サポート
- (7) コミュニティ・モラール
- (8) パーソナリティ、志向
- (9) 孤独感
- (10) 生活満足度

●調査方法

- ・新座市住民基本台帳をもとに等間隔抽出法によるランダムサンプリング
- ・郵送による質問紙調査

●調査対象

60～74歳の男性新座市民3911名

●調査期間

2010年11月

結果

●回収率

47.4% (回収数1856票/3911票)

■男性退職者の生活実態

●孤立

- ・同居者がいない(独居) ・ 挨拶する人がいない
→7.0% (129名) →1.7% (31名)
- ・身近に親族、友人がいない
→45.6% (846名)

- ・ ソーシャルサポートがない

- 「病気やケガのとき身の回りの世話を頼める人」で「とくにいない」が8.0%（149名）

- 「日常生活のちょっとした手助けを頼める人」で「とくにいない」が8.1%（151名）

- 「個人的な悩み事を相談する人」で「とくにいない」が16.4%（304名）

- 「気晴らしと一緒に過ごしたり、出かけたりする人」で「とくにいない」が9.6%（178名）

- 「世間話をする人」で「とくにいない」が9.0%（167名）

- ・ 社会活動に参加していない

- 26.1%（484名）

●夫婦関係

- ・配偶者から自立・自律していない(依存している)

→「妻がいないと身の回りのことで不便を感じることもある」で、「よくある」27.6%+「ときどきある」30.7%=不便を感じる人**58.3%**

「妻がいないと落ち着かない気分になることがある」で、「よくある」14.0%+「ときどきある」28.7%=落ち着かない気分になる人**42.7%**

「妻と一緒に買い物やお出かけをすることがある」で、「よくある」42.6%+「ときどきある」28.9%=買い物や外出に妻と一緒にいる人**71.5%**

・ 配偶者から自立・自律している人は、社会活動に参加している人が多い？

→参加者も不参加者も依存度はほぼ同じ…

・ 配偶者から自立・自律していない(配偶者への依存が高い)人は、孤独感が低い

→相関関係がある！

・ 配偶者が力を入れている活動があると、社会活動に参加している人が多い

→配偶者が活動ある人；84.1%が活動に参加

配偶者が活動ない人；64.9%が活動に参加

⇒約20%の差！

●孤独感

・孤独感を感じている人が約3割？

→「私は自分の周囲の人たちとうまくいっている」で、「あまりそう感じない」19.7%+「まったく感じない」2.1%=うまくいっていると感じない人21.8%

「私のことをよくわかっている人はだれもいない」で、「しばしば感じる」4.3%+「ときどき感じる」14.6%=だれもいないと感じている人18.9%

「私はその気になれば、仲間を得ることができる」で、「あまりそう感じない」28.9%+「まったく感じない」4.6%=仲間を得ることができると感じない人33.5%

「私には知り合いはいるが、気心の知れた人はいない」で、「しばしば感じる」7.7%+「ときどき感じる」23.1%=気心の知れた人はいないと感じる人30.8%

- ・同居者がいるにもかかわらず、孤独感がある
→孤独感4.62点/16点（平均値）cf.独居者5.05点
- ・同居者はいる人で、社会活動に参加している人は、参加していない人より孤独感が少ない
→参加している人；孤独感4.39点/16点（平均値）
参加していない人；孤独感5.22点

●仕事への固執

- ・5割前後の人が仕事を継続、退職への不安
→「はたらいている」54.7%
→「社会の中での役割をうしなう」、「人とのつながりがなくなる」などの何らかの不安がある人47.8%

■地域生活者化の「きっかけ」、 「仕組み」の検討

●健康・スポーツ

・現在行っている活動、最も力を入れている活動、今後やってみたい活動において、最も多い

→「現在行っている活動」52.8%（次に趣味36.9%）

「現在もっとも力を入れている活動」35.9%（次に趣味で18.2%）

「今後やりたい活動」50.2%（次に趣味で38.3%）

・健康・スポーツの参加者は、ボランティア活動の参加者より開放的で、職業や属性に偏りが
ない

→健康・スポーツ参加者の方が、ボランティア参加者よりも開放的（有意差あり！）

→事務的な職業、販売的な職業が他の職業に比べて若干多いが、ボランティア活動より職業に偏りなく参加（ボランティア活動で農林水産業と保安的な職業のみ多かった）

→単身世帯(独居者)も、非単身世帯(同居者がいる人)も、最も多くの方が、健康・スポーツに参加

・健康・スポーツ団体の参加者は、緩やかな「つながり」や気軽な「助け合い」を構築しやすい？

→社会活動団体の種類によっての差はほとんどない…

→社会活動に参加している人の方が、緩やかな「つながり」や気軽な「助け合い」を構築しやすい！

・身近な地域の健康・スポーツ団体の参加者は、まちでの役割を獲得することができる？

→社会活動の種類によっての差は出ていないが、社会活動に参加している人の方が、役割意識が高い！

→身近な地域の健康・スポーツ団体に参加してる人は、団体に所属しない人より役割意識が高い！

●健康、仲間、充実感

社会活動の成果として、健康が最も多く、知り合い・仲間、充実感を得られたことが続く

→「健康状況が良くなった」が最も多く37.9%、次に、「知り合いが増えた」が32.7%、「仲間を得ることができた」が28.6%、「生活に充実感ができた」が28.0%

●まちへの貢献意識

・6割以上が、自分の住んでいるまちのために役立ちたい(貢献意識)と思っている

→「このまちのためになることをして何か役に立ちたい」で「そう思う」18.1%+「まあそう思う」43.3%=身近な地域への貢献意識のある人61.4%

●まちでの仲間意識

- ・6割以上が、まちの人たちと喜びを分かち合いたい(仲間意識)と思っている

→「このまちの人たちと喜びを分かち合いたい」で「そう思う」14.9%+「まあそう思う」43.5%=仲間意識を持っている人58.4%

●まちへの帰属意識

- ・7割以上が、ずっとこのまちに住み続けたいと思っている

→「私はずっとこのまちに住み続けたい」で「そう思う」31.6%+「まあそう思う」39.1%=身近な地域への帰属意識70.7%

●まちでの自己存在の確認

- ・ 3割の人がまちでの役割がある(役割意識)と感じている

→「私はこのまちでの役割があると感じている」で「そう思う」9.2%+「まあそう思う」23.4%=身近な地域で自己存在を確認できている人32.6%

- ・ 社会活動に参加している人の方が、参加していない人より、役割意識が高い

→参加者0.40(平均値;最大値1,最小値0)

不参加者0.24

考 察

■ 孤立、孤独感

- ・ 高齢者の自殺は、老年期の喪失体験(退職、配偶者の死、身体機能喪失など)に伴う孤独感、社会的な孤立が主な原因

- ・ 高齢者の自殺は、独居よりも、二世代、三世代同居の場合のほうが多い

→ 家族内での孤独感

役割期待の喪失

家族に対する重荷の意識など

■ 自殺予防の必要性①

- ・ わが国の自殺者数

総数32,845人(男23,472人、女9,373人)

→ 7割(71.5%)が男性

- ・ 男性の中で、50～59歳が最も多く(19.8%)
、次いで60～69歳(18.1%)

- ・ 職業別の自殺状況

自殺者の約半数(57.0%)が「無職者」
(18,722人;男11,455人,女7,267人)

- ・ 無職者の自殺者数の年齢階級
男女とも60歳代が最も多い

- ・ 無職者の自殺者数の内訳

失業者12%、主婦12%、年金・雇用保険等生活者+その他の無職者74%(全体でも42%)

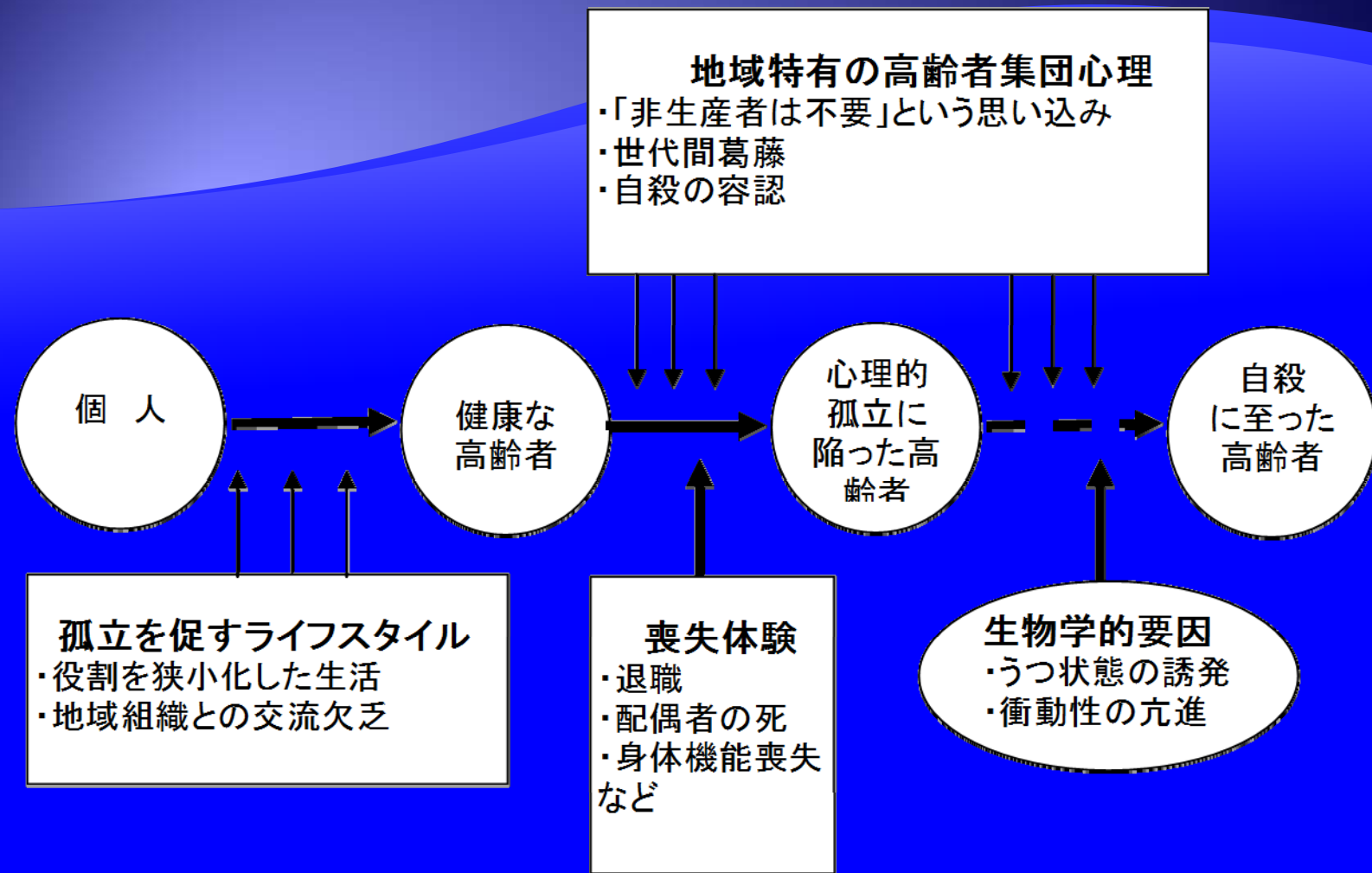
→約7割は定年退職者・高齢者、2/3は男性

◎男性の高齢者、定年退職者の自殺が重要な課題!!

■自殺予防の必要性②

- ・地域福祉の活動では、孤独死の問題などで独居高齢者を対象
- ・自殺のハイリスクである同居家族の中で家庭内孤立に陥っている高齢者は対象外
- ・高齢者の自殺問題は社会福祉の対象となっていない?!

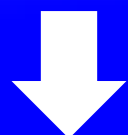
◎地域福祉にも高齢者の自殺予防が必要!!



高齢者自殺の心理社会的モデル(坂下,2003)

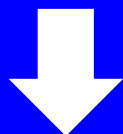
■ 自殺に至るプロセス

老年期の喪失体験(退職、配偶者の死、身体機能喪失など)に伴う孤独感、社会的な孤立、絶望感、見捨てられ感



心身の健康を害する

(→老年期は、精神的な疾患が身体化しやすい)



自殺

■ 孤立を促すライフスタイルの改善

・ 老年期の喪失体験(退職、配偶者の死、身体機能喪失など)は誰もが経験



孤立を促すライフスタイルの改善が必要！！

→ 役割の獲得

地域活動・団体への参加

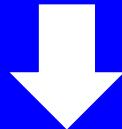
良好な夫婦関係

など

■ 孤独感を軽減させる社会活動

・ 高齢者の自殺は、独居よりも、同居家族内での孤独感が主な原因

同居者がいるが孤独感がある



社会活動に参加している人は、参加していない人より孤独感が少ない

⇒ 孤独感を軽減させるには、社会活動に参加することが必要！

■ 孤独感を軽減させる夫婦関係

- ・ 配偶者への依存が高い人は、孤独感が低い
- ⇒ 配偶者へ依存できる夫婦関係 (= 濡れ落ち葉) が孤独感を軽減させる?!
- (→ これがより良い夫婦関係かどうかは疑問…)

■ 役割を獲得できる社会活動

- ・ 社会活動に参加している人の方が、参加していない人より、役割意識が高い
- ⇒ 役割を獲得するには、社会活動に参加することが必要!

■地域生活者化のための「きっかけ」

●健康・スポーツの可能性

- ・最も参加者が多い社会活動
- ・開放的で、多様な人たちが参加

⇒健康・スポーツは、地域生活者化の「きっかけ」として最も有効！

●夫婦関係

- ・配偶者が力を入れている活動があると、社会活動に参加している人が多い

⇒配偶者が社会活動に参加することが必要！

■地域生活者化のための「仕組み」

●総合型地域スポーツクラブの可能性

- ・社会活動の成果として、健康、知り合い・仲間、充実感の獲得

→社会活動に健康、仲間、充実感を求めている

- ・男性退職者は、身近な地域での貢献意識、仲間意識、帰属意識が高い

→身近な地域のために仲間と共に貢献できることを求めている

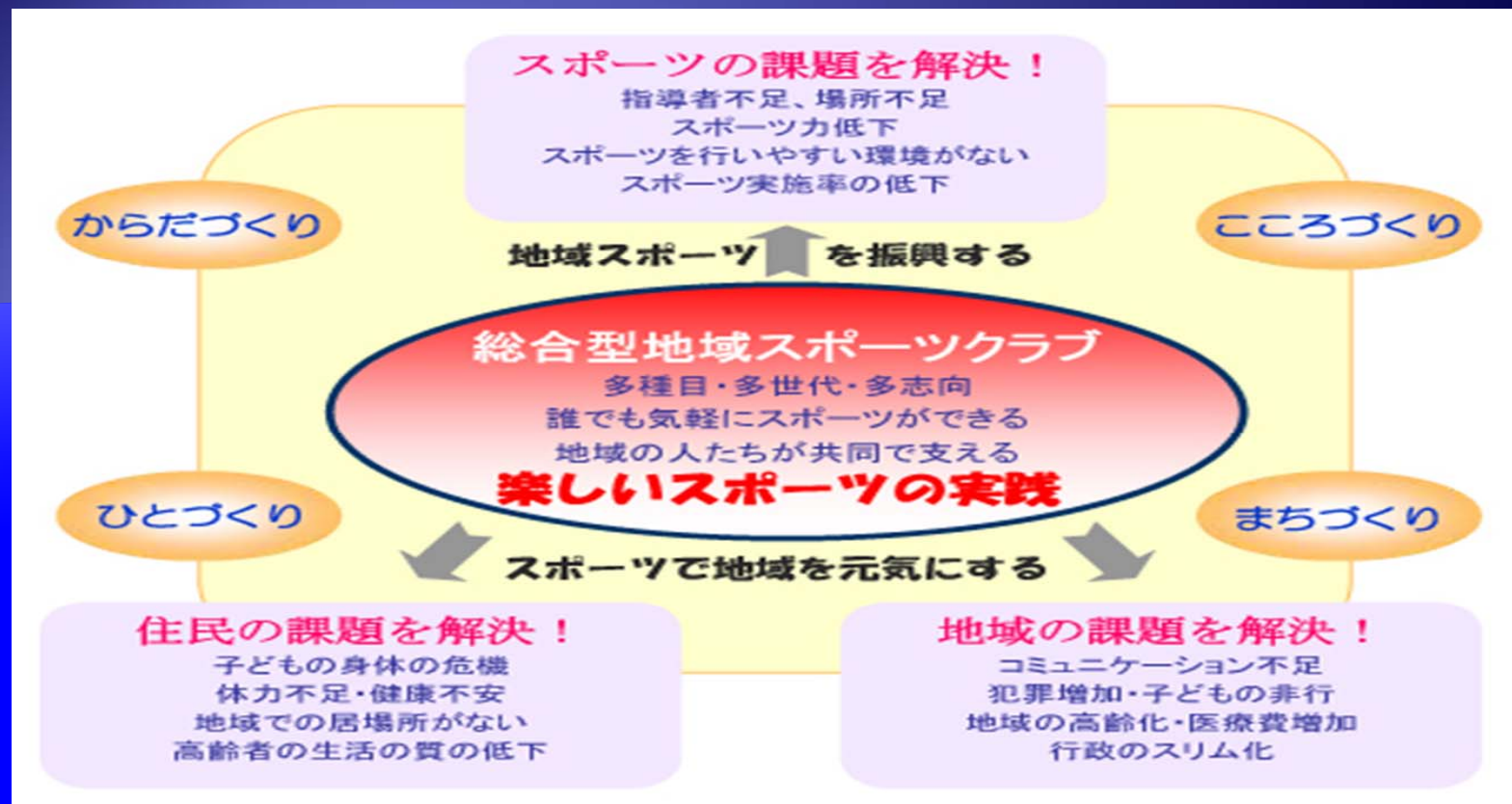
- ・身近な地域の健康・スポーツ団体の参加者は、団体に所属しない人より役割意識が高い

→まちでの役割を獲得することができる！

⇒自らの健康づくりを行い、身近な地域のために仲間と共に貢献でき、役割を獲得できる活動、組織が必要！

- ・健康・スポーツによる健康づくりを「きっかけ」として、仲間と共に身近な地域に貢献し、役割獲得できる「仕組み」となる社会活動は？

⇒総合型地域スポーツクラブ



- ・ いつでも、誰もが、どこでも参加
- ・ 他種目、多世代、多志向
- ・ 地域住民が主体的に運営
- ・ 地域コミュニティの拠点
- ・ 地域の様々な問題、課題への取り組み、など…

●ソーシャルビジネスの可能性

- ・仕事に固執
- ・身近な地域への貢献意識が高い

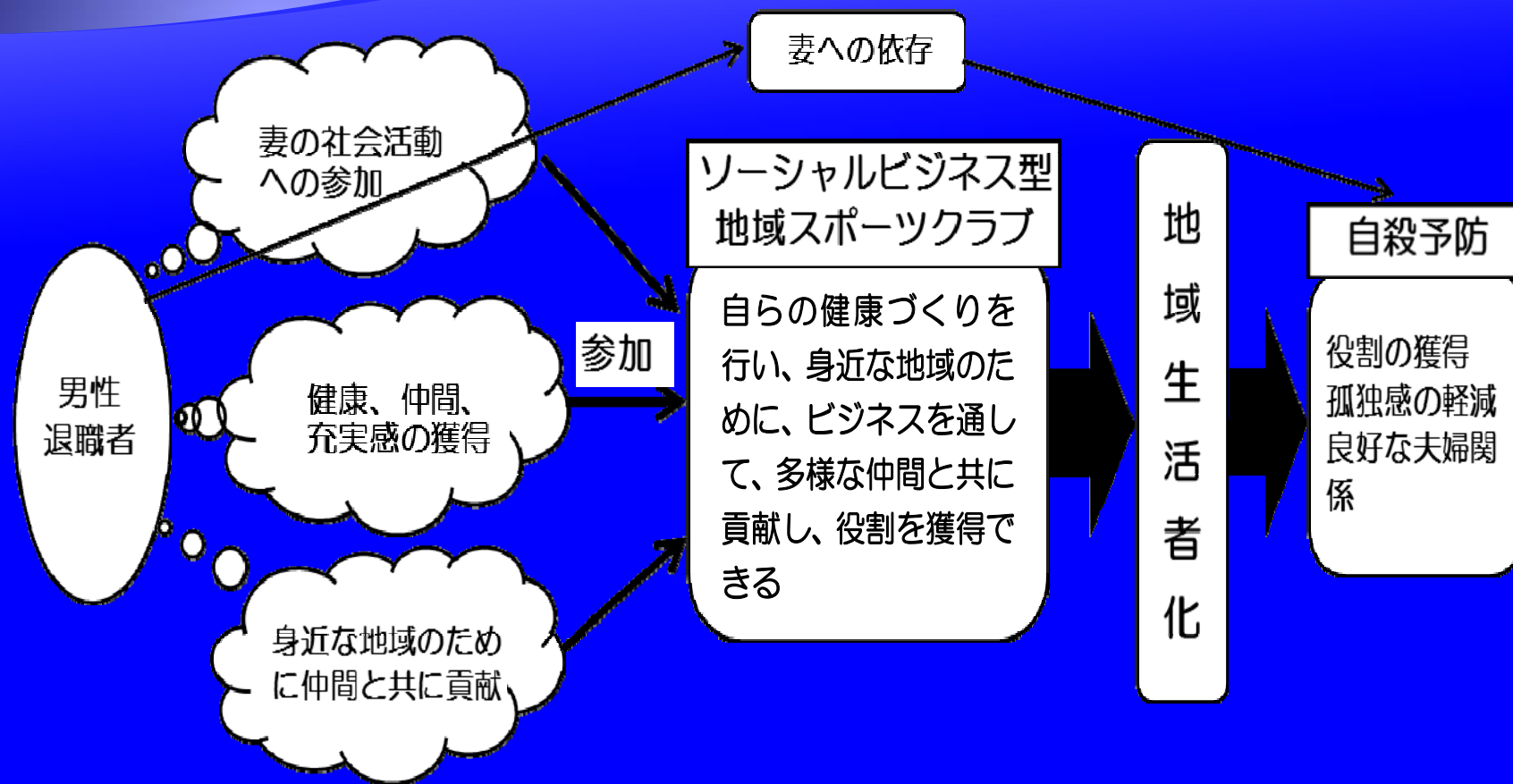
⇒ソーシャルビジネス(SB)の可能性!!

＝社会や地域の問題、課題をビジネスを通して、解決する

●SB型地域スポーツクラブの可能性

総合型地域スポーツクラブ＋ソーシャルビジネス
＝SB型地域スポーツクラブ

■地域生活者化プロセスモデル(試案)



結 論

- 自殺予防の必要性

- 自殺予防としての社会活動への参加

 - 健康・スポーツ活動の可能性

 - ソーシャルビジネスの可能性

 - ⇒SB型地域スポーツクラブ

課題

- 変数間の相関関係、因果関係
- 男性退職者へのインタビュー調査
- インタビュー調査の質的分析
- 地域生活者化プロセスモデルの構築

政策提言

- 男性退職者の自殺予防対策
- 総合型地域スポーツクラブの普及・促進
- ソーシャルビジネスの育成・促進
- SB型スポーツNPOの育成・促進